

企業市民として

企業は社会の公器であると考え、ボランティア活動や寄附にとどまらず、本業を活かした企業市民活動を展開しています。

2005年度の
課題・目標

より多くのグループ従業員が参加できる自主ボランティアプログラムの充実を図る

2005年度の
実績・進捗状況

新人研修におけるボランティア活動を拡充し、研修所近辺の駅周辺で総勢400名による清掃活動を実施

企業市民活動についての考え方とこれまでの取り組み

よき企業市民として、社会に貢献する活動は、「社会への投資」と考えています。企業市民活動は持続可能な発展ができる社会、企業のために重要な要素ととらえ、積極的な活動を展開しています。

活動は以下の4つに大別されます。

- 経済・金融分野での教育・研究活動
- ボランティア活動を従業員に広めるための活動
- 文化・芸術事業への協賛活動
- 財団・NPO等を通じた地域社会・国際社会への助成活動

経済・金融分野での教育・研究活動

大和証券グループが本業の経済・金融分野で蓄積してきた知識、ノウハウを積極的に社会に還元することは、持続的な経済・社会の発展に貢献すると考えています。そのため、大学との共同研究や寄附講座、中学・高校での経済教育の支援などを積極的に行なっています。詳しくはP15～18をご参照ください。

ボランティア活動を従業員に広めるための活動

ボランティア活動に参加することは、従

業員の視野を広げ、新たな価値観をつくるものと考えています。そのため、さまざまな機会を通じ、従業員がボランティア活動に参加することを推奨しています。

ボランティア活動は、大和証券グループが自主的に運営する自主企画の活動と、地域社会やNPOと協力して開催する共催企画の活動の2種類があります。また、社内イントラネットでさまざまなボランティア情報を発信し、ボランティアへの参加を呼びかけています。

グループ従業員へのボランティア案内



大和証券グループの企業市民活動

活動	活動の分野	主な活動の内容	支出金額(万円)			
			2003年度	2004年度	2005年度	
経済・金融分野での教育・研究活動	小・中・高校生向けの取組み	ファイナンス・パーク、スチューデントカンパニー・プログラム(SCP)など	21,250	18,404	16,492	
	産学連携、大学・大学院向け	寄附講座、共同研究など				
ボランティア活動を従業員に広めるための活動	自主企画	新入社員合同研修、麻布十番祭り、間伐体験、手話講座など	487	431	621	
	共催企画	傾聴講座、中央区クリーンアップなど				
文化・芸術事業への協賛活動	文化芸術振興にかかわる協賛活動	「ルーヴル美術館展」、 「フェニーチェ歌劇場 日本公演2005」など	10,000	36,000	35,800	
財団・NPO等を通じた地域社会・国際社会への助成活動	3つの財団等	大和証券福祉財団	1,500	16,000	7,544	
		大和証券ヘルス財団				保健、医療、福祉関連の助成
		大和日英基金				日・英の相互理解の促進、留学生の受入れ
	2つのプログラム助成	津波復興基金				2004年12月に発生したスマトラ沖地震とインド洋津波による被災地の復興
SRI助成プログラム		「ダイワSRIファンド」の販売残高を基準に拠出する助成金プログラム				
その他	諸会費・協賛金					
合計			33,237	70,835	60,457	

2005年度には96件の活動を紹介し、延べ1,874名の従業員が参加しました。

また、自然災害発生時の募金活動や、ペットボトルキャップ、使用済み切手などのリサイクル活動も積極的に展開しています。

自主企画

大和証券グループでは、新入社員研修にボランティア活動を盛り込んでいます。2006年4月の新入社員研修では、研修所近くの駅周辺の清掃活動と、介護施設での福祉活動を実施。参加した新入社員からは「清掃活動中に地域の方に、おつかれさま、ありがとう」と声をかけていただいたことが印象的でした。「たばこの吸殻が非常に多く苦労しました。自分も喫煙者ですが、拾う側になってみてポイ捨てがいかにも迷惑な行為であるかを痛感しました」などの声が寄せられています。

2000年から続けて開催している手話教室は、大和証券グループの従業員だけでなく、一般の方にも開放しています。6ヵ月を1クールとし、毎回約50名が手話を学んでいます。



新入社員研修(清掃活動)



新入社員研修(介護施設でのボランティア)



手話教室

共催企画

地域やNPOと協力し、単独ではできない大規模なボランティア活動にも参画しています。2005年には中央区の企業15社と「ボランティア区民活動センター」が参加する「中央ぷらねっと」主催で、中央区クリーンアップを実施。たばこの吸殻などごみを拾い、環境美化を行ないました。また傾聴体験講座(相手の話に深い関心を持って聴くこと)を東京、大阪、名古屋で開催しました。

文化・芸術事業への協賛活動

さまざまな文化芸術振興活動にも協賛しています。2005年度には4月～10月に「ルーヴル美術館展」、5月に「フェニーチェ歌劇場 日本公演2005」に特別協賛しました。

横浜、京都において開催された「ルーヴル美術館展」は2005年度中の美術展として最大級の動員数となりました。2006年度も「ルーヴル美術館展～古代ギリシア芸術・神々の遺産～」に特別協賛しています。



ルーヴル美術館展の内覧会

従業員による募金/リサイクル活動と実績(2005年度)



財団・NPO等を通じた地域社会・国際社会への助成活動

「大和証券ヘルス財団」は、中・高齢者の保健・医療および福祉に関する調査研究へ助成を実施。2005年度は30件、総額3,000万円の助成を行ないました。

「大和証券福祉財団」は、福祉・医療分野等におけるボランティア活動に関する助成を実施。2005年度は206団体、総額4,398万円の助成を行ないました。

また、日本と英国間の相互理解を促進する活動と親善に寄与することを目的とした「大和日英基金」では、大和スカラーとして毎年英国の奨学生を日本に招聘しています。2005年度には7名が訪日しました。

今後の課題と2006年度の目標

NPO・NGOとの協力や各種助成プログラムなどにおける効果的な支援を継続することにより、「いのち」にかかわる活動など、社会的課題の解決に向けた活動を続けていきます。またより多くの従業員が参加できるボランティアプログラムの充実を図ります。

企業市民として

地域に根ざしたNPOへの助成活動によって、必要とされるところへの着実な支援に努めています。

「スマトラ沖地震・インド洋津波支援 「大和証券グループ津波復興基金」

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波に際して、被災地の復興策として「大和証券グループ津波復興基金」を設けました。これは、2005年度から10年間にわたり、毎年1,000万円、総額1億円を拠出する長期的な支援です。

公益信託アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)内に「大和証券グループ津波復興基金」を設立し、インドネシア、スリランカ、インドの被災3カ国で、「子どもの心のケ

ア」、「子どもに対する教育機会の提供」、「マイクロファイナンスの活用」の3分野で支援活動を行なう現地NGOに助成金を提供。プログラムの選定や活動状況のモニタリングは、ACT事務局を務めるアジア・コミュニティ・センター21(ACC21)が、また、資金管理は住友信託銀行が、それぞれ専門性を活かして担当します。

一過性ではなく長期の復興支援策であること、公益信託やマイクロファイナンスなど金融システムを活かした支援であること、モニタリングにより活動状況を把握できることが大きな特徴です。



ココナッツの葉から手工芸品をつくるトレーニング



子どもたちに学用品を配布

助成先団体

国名	事業名	現地NGO	受益者数	助成額*
スリランカ	女性の自立と開発プログラム	ウィルボタ女性貯蓄運動	225人の女性世帯主および135人の子ども	320万円
	子どもの精神的ケアと教育支援事業	有機的で環境に配慮した農業システム財団	子ども120人、教育支援1,200人	160万円
インド	身体障がい孤児の職業訓練と自立支援事業	農村地域向上・エンパワーメント・トラスト	子ども75人	119万円
インドネシア	子どもの精神的ケアと教育支援事業	ワルサマNAD	避難所で暮らす子ども157人	260万円

*助成額は2年および3年計画の1年目の金額

ステークホルダーからのコメント

「マイクロファイナンス支援を受けて

「大和証券グループ津波復興基金」からの資金を活用して、主に、以下の3つのプログラムを展開しています。第一に、援助機関からの支援が届いていないゴール県内被災地の女性225人に対して、マイクロファイナンスとビジネス開発支援を行なっています。具体的には、この1年間で、(1)合計9回にわたる意識啓発ワークショップの開催、(2)ロープづくり、縫製、セメントブロックづくり、農業、小商店、石工、食品加工、手工芸品などの職業訓練実施と道具の配布、(3)10の貯蓄グループによる貯蓄活動(2004年7月24日現在 貯蓄額合計9万1,480ルピー = 約

10万2,000円)を実施しました。第二に、被災した子ども135人に対し、通学かばん、帽子、傘、教科書、ノート、靴、ペン、鉛筆、コンパスなどの学用品セットを配布し、復学を支援しました。第三に、苦痛を一時忘れて一緒に気晴らしを楽しむ遠足プログラムもニーズが高く、予定を前倒して実施しています。これらのプログラムを通じて住民の再組織化がすすみ、相互扶助の仕組みもつくりだされていることから、このプログラムが単なる救済ではなく、復興に向けた自助努力を促すものであることが、被災地でも徐々に理解され始めていると感じます。



スリランカのNGO「ウィルボタ女性貯蓄運動」会長
カルナワチー・メニケ氏

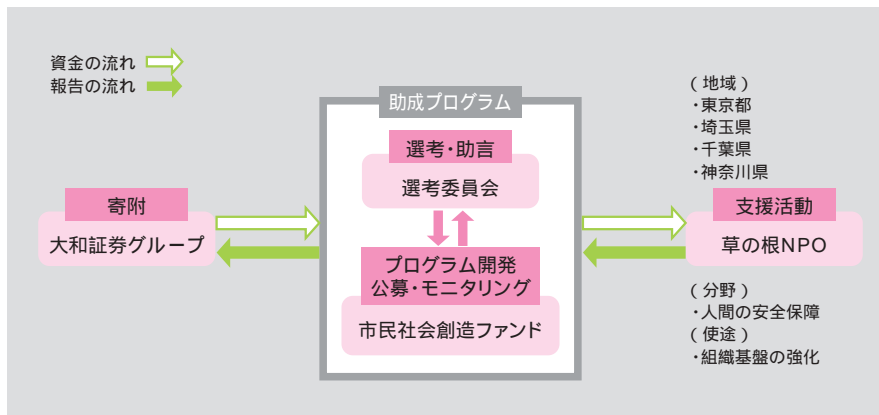
■ **ダイワSRIファンド助成プログラム**
■ “いのち”に取り組む
■ NPOスタッフの育成

「ダイワSRIファンド」は、日本株式を対象に“企業の誠実さと透明性”を重点的に評価するSRIファンドです。大和証券投資信託委託、大和証券、大和証券SMBCの3社は、このファンドの販売残高を基準とした一定額を拠出し、“いのち”にかかわる活動への助成を行なっています。

助成の対象となるのは、さまざまな社会的事情により、生命を脅かされている人々を支援する活動を行なうNPOです。活動そのものを直接助成するのではなく、スタッフの人件費や教育費を助成することで、NPOの組織の基盤を強化することが大きな特徴です。

助成先は、NPO専門家などで構成する選考委員会により決定。特定非営利活動法人 市民社会創造ファンドに対して、「ダイワSRIファンド」を運用・販売する3社から寄附を行ない、この寄附金を原資として助成を行なう仕組みです。

助成プログラム



助成先計画・団体

計画名	団体名	助成額
刑事被拘禁者のための相談及び政策提言活動にかかわるスタッフの能力向上	特定非営利活動法人 監獄人権センター	180万円
国内難民支援に求められる組織強化を目指した人材育成	特定非営利活動法人 難民支援協会	200万円
若者相互のAIDS・人権・いのち啓発プログラムYYSP(Young for Young Sharing Program)のコーディネーター育成	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター(全国事務局)	160万円
生活困窮当事者のボランティア参加を可能にするスタッフ体制づくり	特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい	160万円

ステークホルダーからのコメント

■ **人材支援助成を受けて “いのち”を大切にする社会の実現のために**

「SRIファンド」という社会的な意味を持つ商品の、その社会性をさらに強めるような企業市民活動をしようとの試みに心引かれて、今回お手伝いをさせていただいた。このような趣旨を鮮明に表現できる助成プログラムはどのようなものかと何度も議論を重ね、一般の企業では扱いにくい課題に取り組むことにした。それが“いのち”を大切にする社会の実現」というコンセプトになり、そのような活動に取り組む「NPOのスタッフ育成」というテーマに行き着いた。人の“いのち”を対象としたNPOにとっては、スタッフの日常的な活動の質を上げることが何よりも重要になる。そこでプロジェクトへの助成という

ことにはこだわらず、思い切って人件費を中心に助成することにしたのである。

初めての試みでもあり今回は対象を首都圏に絞ったが、短期間の公募にもかかわらず22の市民活動団体から意欲的な応募をいただいた。そして選考委員会での慎重な議論を経て、ともすれば一般からは忌避されがちな、日本社会では表に出にくい病理的ともいべきテーマに取り組んでいる4つの団体に助成することができた。

国際社会ではヒューマン・セキュリティ(人間の安全保障)の確保が重要な課題になっているが、このテーマは日本社会においても忘れてはならない。今回の助成プログラムは、

この身近なヒューマン・セキュリティへの取り組みの先駆的な例になるに違いない。



市民社会創造ファンド運営委員長
(法政大学教授)
山岡義典氏